

# Kindergarten の Classroom

松本 康子

現地校・キンダーガーデンの Back to School Night と授業参観に初めて参加したとき、アメリカの教室はなんだか様子が違う、という印象を受けました。代表的なものが、星条旗とカラフルに飾り付けされた教室の中の地図で、アメリカで教育を受ける子どもたちの原点と将来を示唆しているように感じました。

## < The Pledge of Allegiance >

**I pledge allegiance to the flag of the United States of America and to the republic for which it stands one nation under God, indivisible, with liberty and justice for all.**

一体なにごとが始まったの？

Back to School Night での保護者会でのことです。先生や親御さんたちが起立し、胸に手を当て、星条旗に向かって、いっせいに唱和し始めました。あたふたしながらも取りあえず、私も起立し、胸に手を当てて見よう見まねをします。何を唱っているのか耳をすませるのですが、よく分かりません。

授業参観でも同じことが起こりました。わが子の口元をじーっと見てみると、上手に唱和できているようでした。キンダーへ入る前の幼稚園の授業参観にも欠かさず参加しましたが、いままでにない経験です。家へ帰って子どもに教えを乞い、内容を知ってみると、現地校の教育の目的はこの Pledge で言い表されているのかしら、という程の印象的な行事です。

親の私にとっても、これが現地校デビューの第一歩でした。

## < カルフォルニア州と多民族国家アメリカ >

私の住むカルフォルニア州は、アメリカの縮図といえる土地柄です。その証拠に、ずいぶん前になりますが、Cerritos 市はアメリカで最も多様な人種の人たちが住む町だと、ニュースで調査結果を発表していました。我が家はその隣り町で、その頃に子どもたちが通っていた小さな学校区ですら、Language Survey の調査では、家庭で英語以外の言語を使用するという数は 90 カ国に近い数字でした。まさに、多民族で成り立つアメリカの代表格です。

そのニュースを聞く以前にも、私がこの多民族で成り立つアメリカを強く意識させられたものに、前述の Pledge とクラスルームに掲げていた世界地図があります。日本で教育を受けた私の記憶にある地図とは、かなり様子が違っていたのです。よく見てみると、地図の上に子ども達の顔写真が貼りつけてあります。誰の写真？クラスの子どもやその家族がアメリカ以外の国の出身なら、その国をマークし、子どもの写真と名前を書き込んでいたのです。もちろん、祖先がどこから来たのかよく分からないというアメリカ生まれの子どもも同じように、どの州の出身かを書き入れていました。



この地図で、世界の国の名前と位置を教える本来の目的と、30 人のクラスメイトの中に、自分とは違った国をルーツとする仲間がいることを知ります。そして、その子ども達が、星条旗の下に、みんな一丸となって「アメリカの国民として・・・（以下省略。正確な日本語訳はお調べください）」、という意味でしょうか。

Pledge は毎日唱和され、また、地図は教室の一番目立つところに掲げられています。良い悪いの議論は別にして、この二つによって、現地校の教育の目的の一つが見事に慣例化され、刷り込みされているのです。

## < Show and Tell >

現地校のクラス・ルームが、多文化・多国籍で成り立っているという事については、語りつくせないほどのエピソードと経験があります。その一つが「Show and Tell」です。現地校のこの教育の目的は、人前でプレゼンテーションさせるという、トレーニングの意味ばかりではありません。それは、我家の子どものクラスでは、だれもが一度は自分の国にちなんだことを紹介しなくてはならない、ということから知り得ました。

当然、あまり知識のない子ども達は、クラスで発表するため